

あ み だ に よ ら い ぞ う
阿弥陀如来像

- ◇ 指定日 昭和31年4月11日
- ◇ 所在地 長根
- ◇ 所有者 長根寺

阿弥陀如来は、西方の極楽浄土にいる仏様で、多くの仏教宗派で広く信仰されています。

室町時代中期の制作と考えられ、一木造りで内ぐりがあり、背板をはめています。

材はヒバかヒノキとみられ、膝の前は別の材料で作られており、その左右両端には径5cm程の穴が見られます。

顔はふくよかで、目は切れ長で眼尻を上げ、腹部はやや膨らんでいます。右脇には衣をはさみ込んで着せ、左肩に雲形模様の布端くもがたの布端きれはしが見られます。手は弥陀定印みだじょういんを結び結跏趺座けっかふざしています。

約150年前まで長根寺にあった阿弥陀堂の本尊として安置されていたと伝えられています。



像高 110.5cm 幅 63.5cm 奥行 74.8cm